# 進学先としての短期大学とは

## －短期大学生調査からみた学生の意識－

○　堺　完　　立教大学
山崎　慎一　桜美林大学
宮里　翔大　桜美林大学大学院
黄　海玉　　短期大学基準協会

2018年9月3日（月）
日本教育社会学会第70回大会＠佛教大学

# 発表の流れ

１．はじめに

２．視点と対象

３．分析

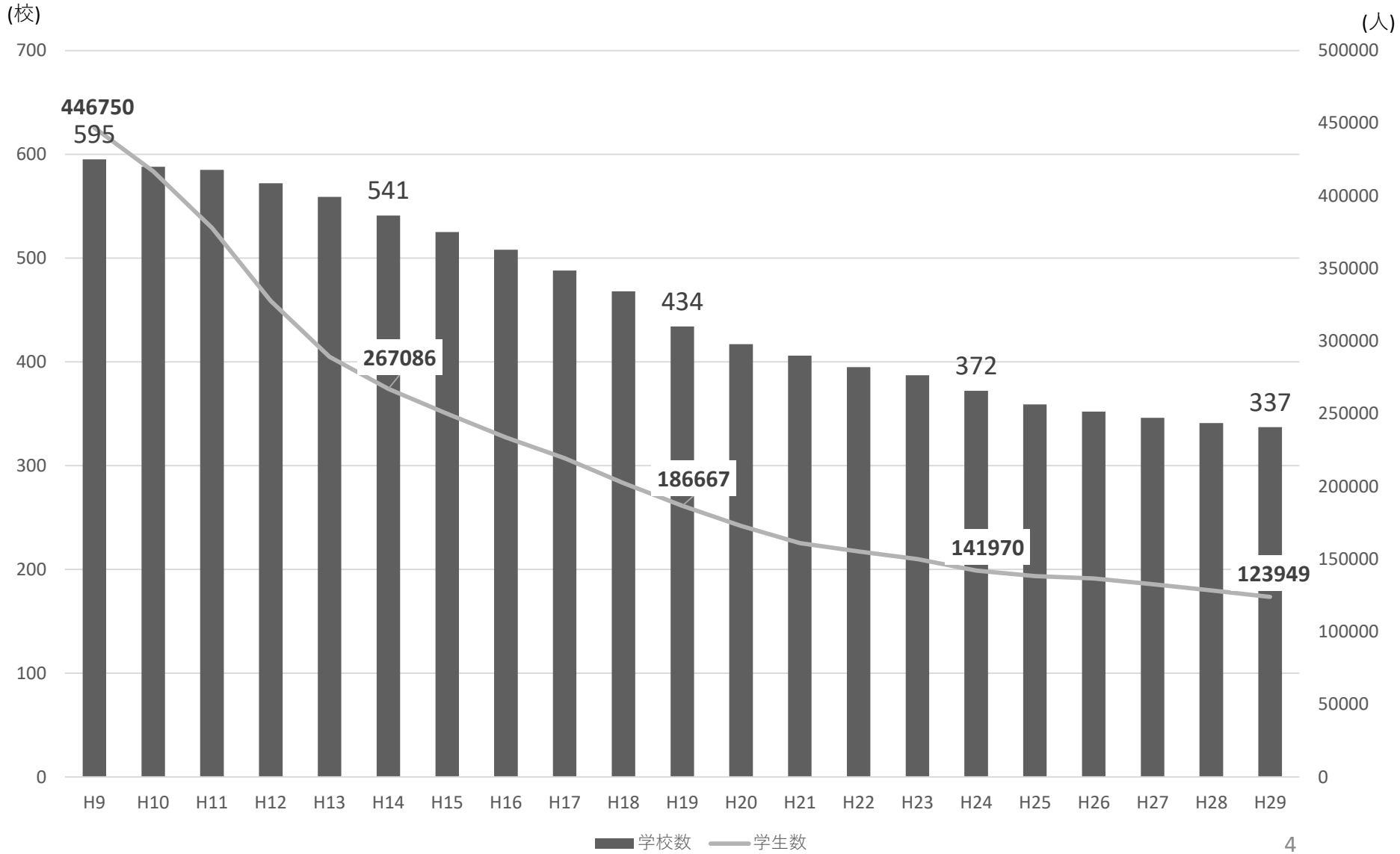
４．結果と今後の課題

# はじめに：短期大学の現状

短期大学：
学校数　337校（うち私立320校）
学生数　およそ12.4万人（うち私立11.7万人）
男女数　男性1.4万：女性11万（女性が9割近）

参考までに４年制大学では・・・
学校数　780校
学生数　289万人（男性163万、女性126万）

# 短期大学の数の変遷


(校)
(人)
700
600
500
400
300
200
100
0
500000
450000
400000
350000
300000
250000
200000
150000
100000
50000
0
446750
595
541
267086
434
186667
372
141970
337
123949
H9
H10
H11
H12
H13
H14
H15
H16
H17
H18
H19
H20
H21
H22
H23
H24
H25
H26
H27
H28
H29
学校数
学生数

# 問題意識と研究目的

- 社会の四年制大学志向の高まりによって、短期大学は学校数・学生数ともに減少を続け、女子学生の進学先としてもマイナーになっている。

- しかしながら、高等教育機関（大学・短大）進学者の１割は未だに短期大学へと進学をしているのも事実

（2017年度の四大・短大進学総数は69万人）

**研究目的：**

**この１割がどういった意識をもって進学しているのか？**
**学生調査の結果をもとにそれらを概観**

# 短期大学に期待される役割

四年制大学と比較した短大の特徴：

- 学費が安い
- 所在地が中小都市を含め全国各地に幅広く分布しアクセスがしやすい
- 修業期間が短い
- 幅広い教養教育と専門的な職業教育のバランスが取れた教育課程
- きめ細やかな学生支援による教育

（文部科学省, 2014,「短期大学の今後の在り方について（審議まとめ）」）

# 短大進学選択のポイント

- アクセスの良さ（自宅から通える）
- 四大と比べて学生生活トータルでの費用負担が少ない（お金がかからない）
- 学生数が少ないので、少人数で教育が受けられる
- 専門と教養のバランスの取れた履修と資格取得に重点を置いた学修支援体制

# 進路選択・機会に関する先行研究

- 高校生の進路選択には、学生やその家族の社会的地位、本人の学力、家庭の教育費の負担が影響（矢野（2015）、藤村（2009）など）

- 高等教育進学の可否や教育アスピレーションは、上記に加え学生の居住形態や出身地域によって、さらに差が開く可能性（小林（2007））

⇒進学にかかる家計の経済的負担や学生の出身地などによって、短大への進学や入学後の意識にどんな違いが見られるか？

# 本研究のアプローチと対象

- 現在の短大生の居住形態や通学時間、短大の所在地といったアクセス、学費の負担感について、短大生がどういった認識にあるのか、検証

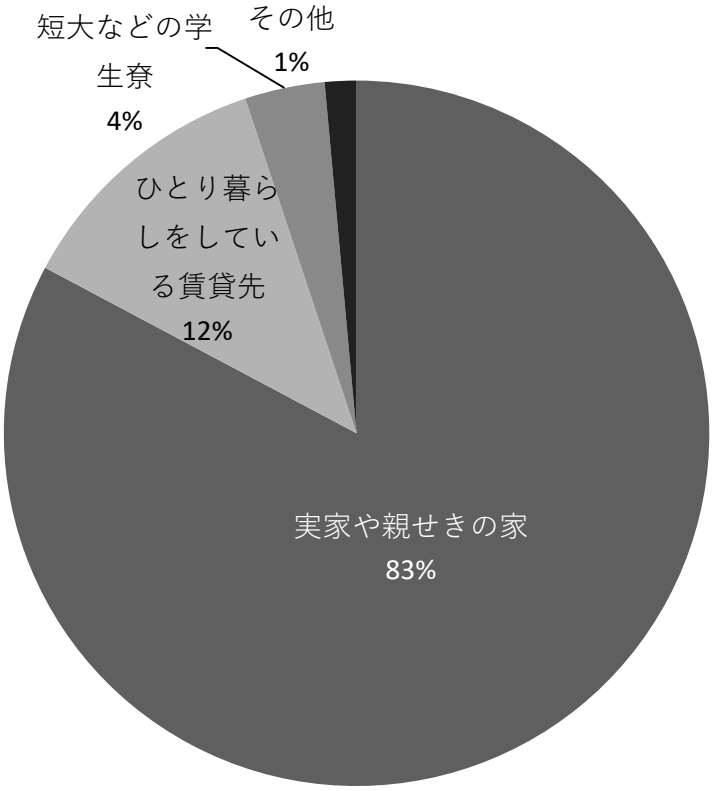
- 「短期大学生調査」の2017年度調査データを利用。この調査は、毎年9～12月に、参加を希望する協会会員校を対象として実施。2017年度は、57短大17239名（男性1277名、女性15930名、欠損値32）が参加

主な変数：「居住形態」「通学時間（片道）」「進学理由」「短大独自の経済的支援」「学費負担の主体と割合」

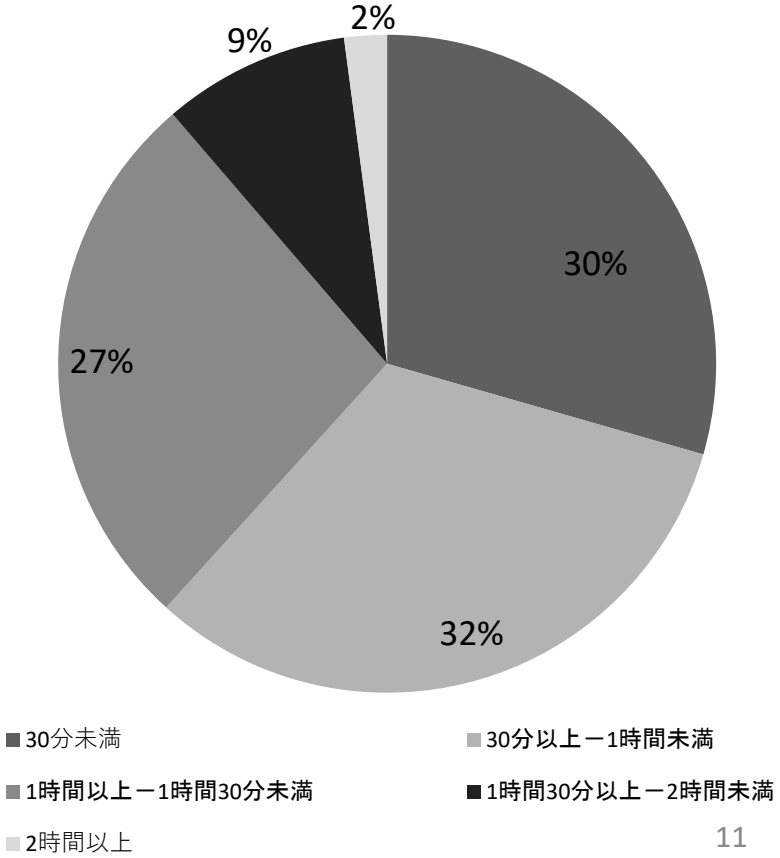
# 分析

# 居住形態と通学時間

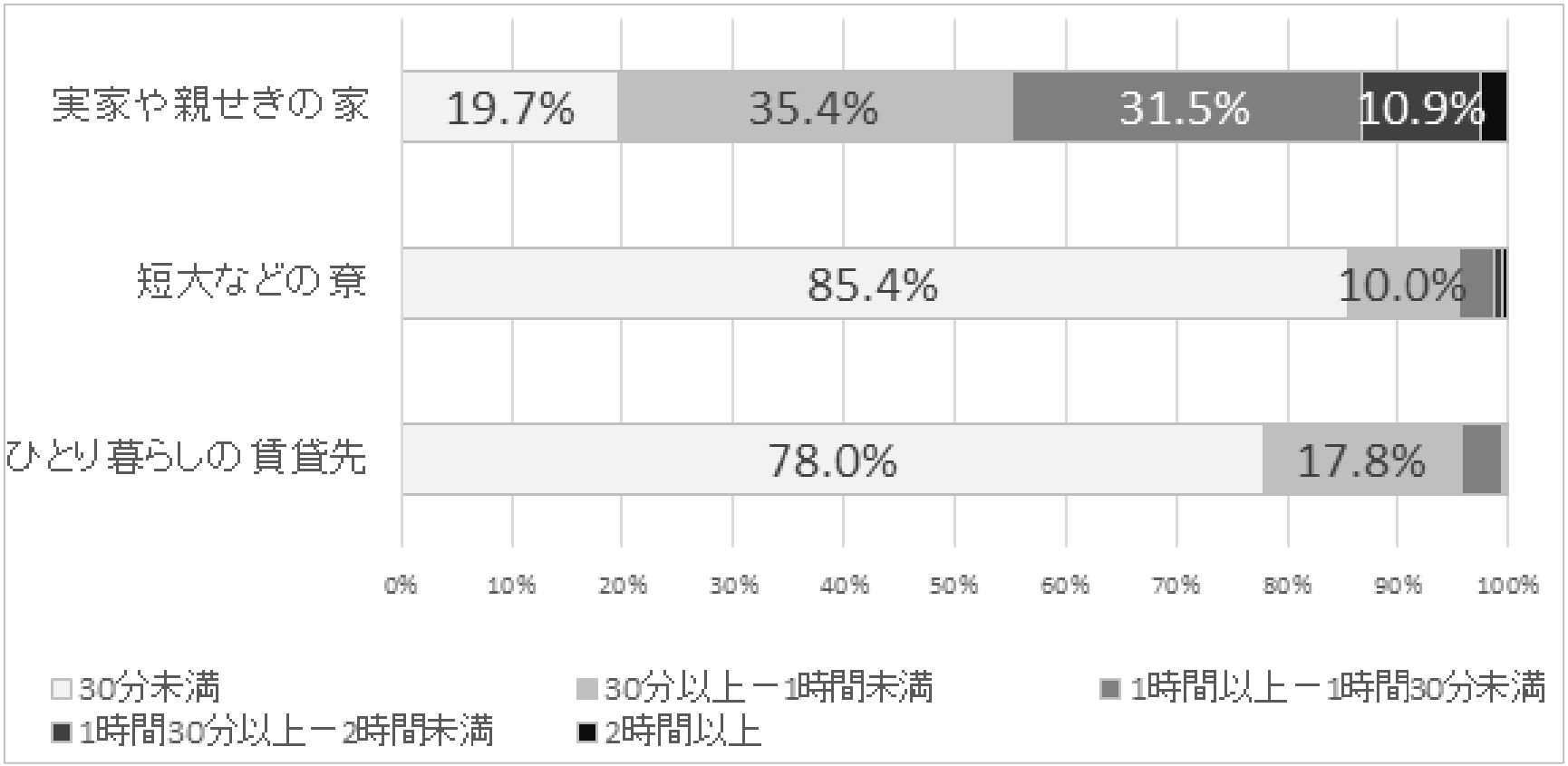
## 現在の住まい




## 通学時間（片道）

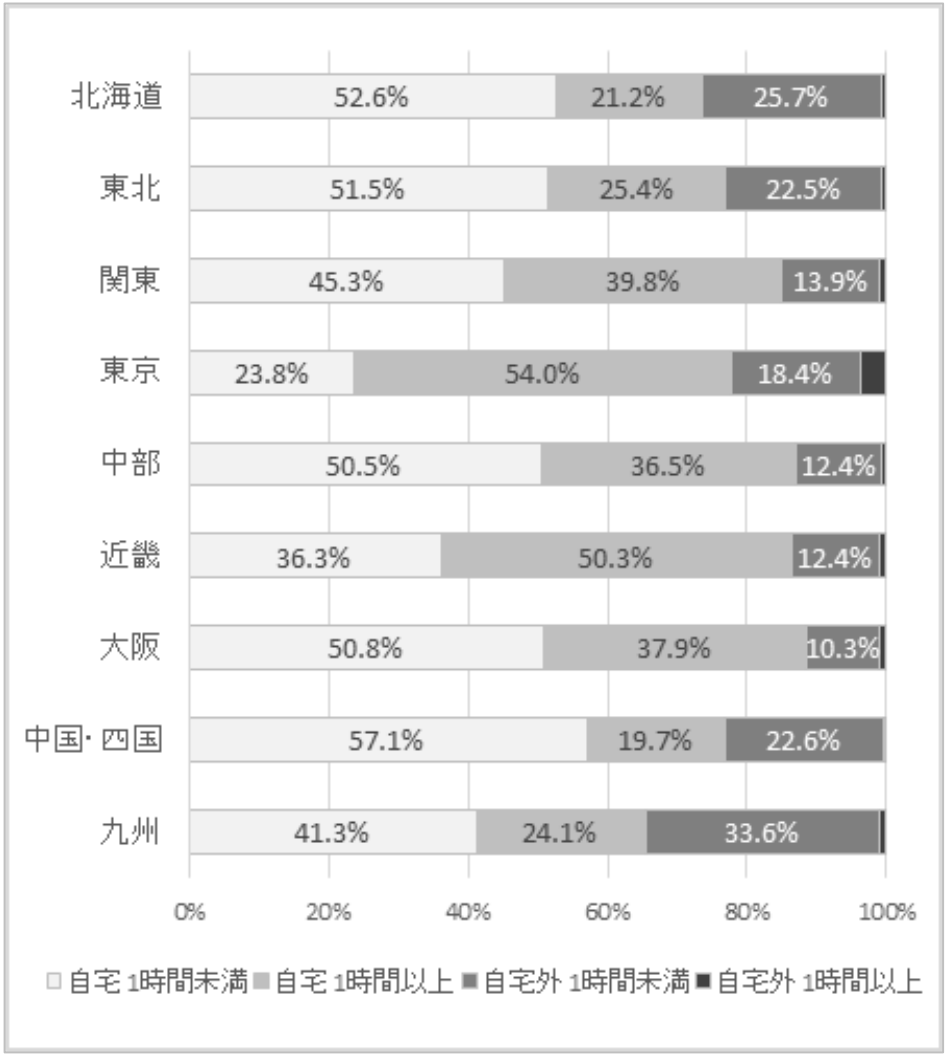


# 短大へのアクセス状況




**自宅／自宅外と短大への通学時間**

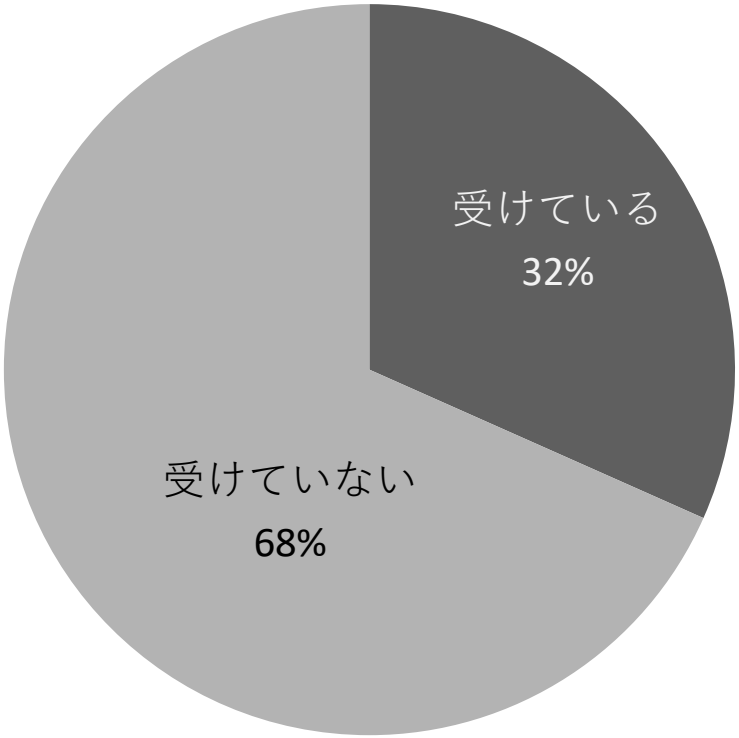
# 地域別にみたアクセス状況



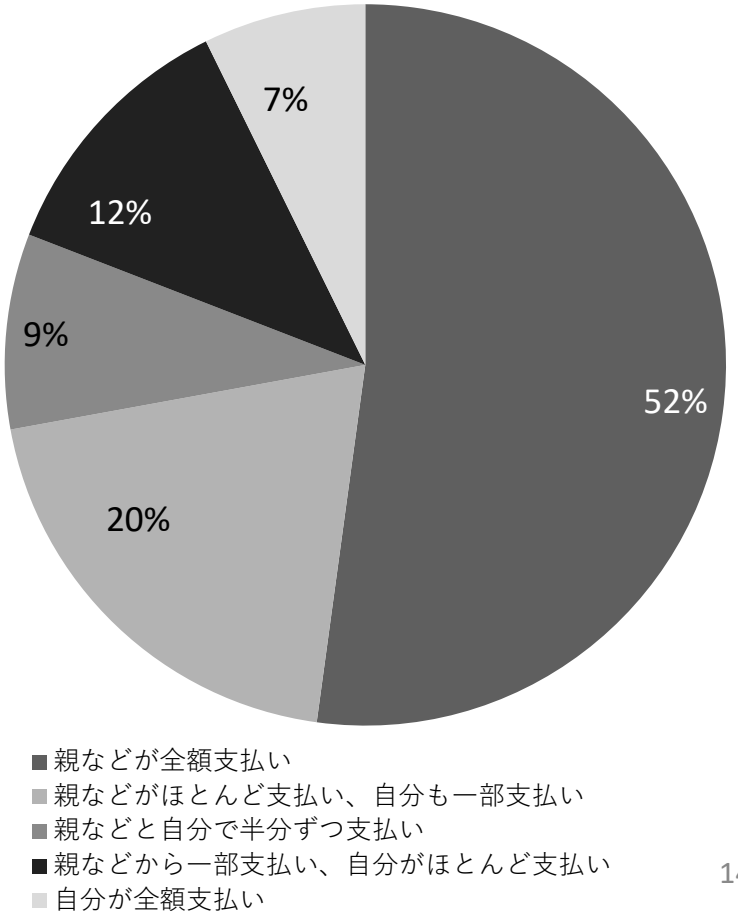

- 全体として、約7-8割が自宅からの通学しているが、地域差によって通学時間の分布に違いがある
- 「東京」と「近畿」は、自宅通学であっても約半数が1時間以上かけて通学している
- 「九州」は自宅外からの通学が3割超えている

# 学費負担について

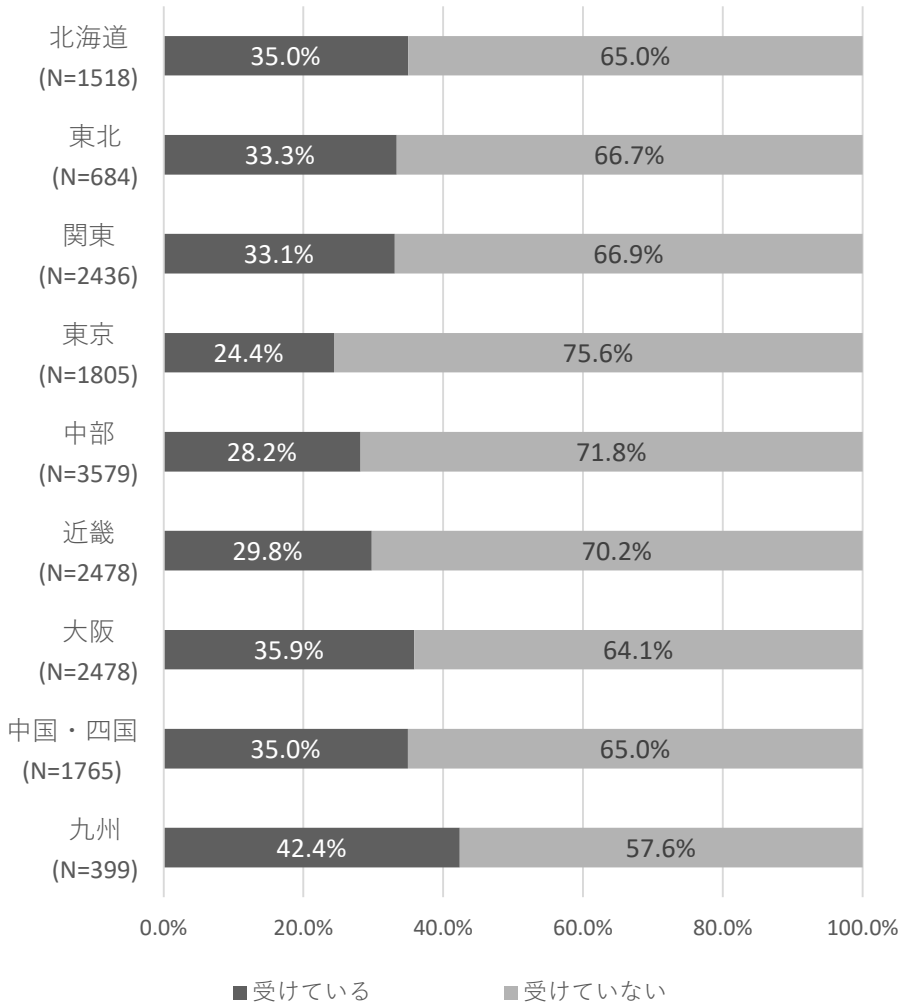
## 短大の経済的支援の有無




## 学費等の費用負担状況

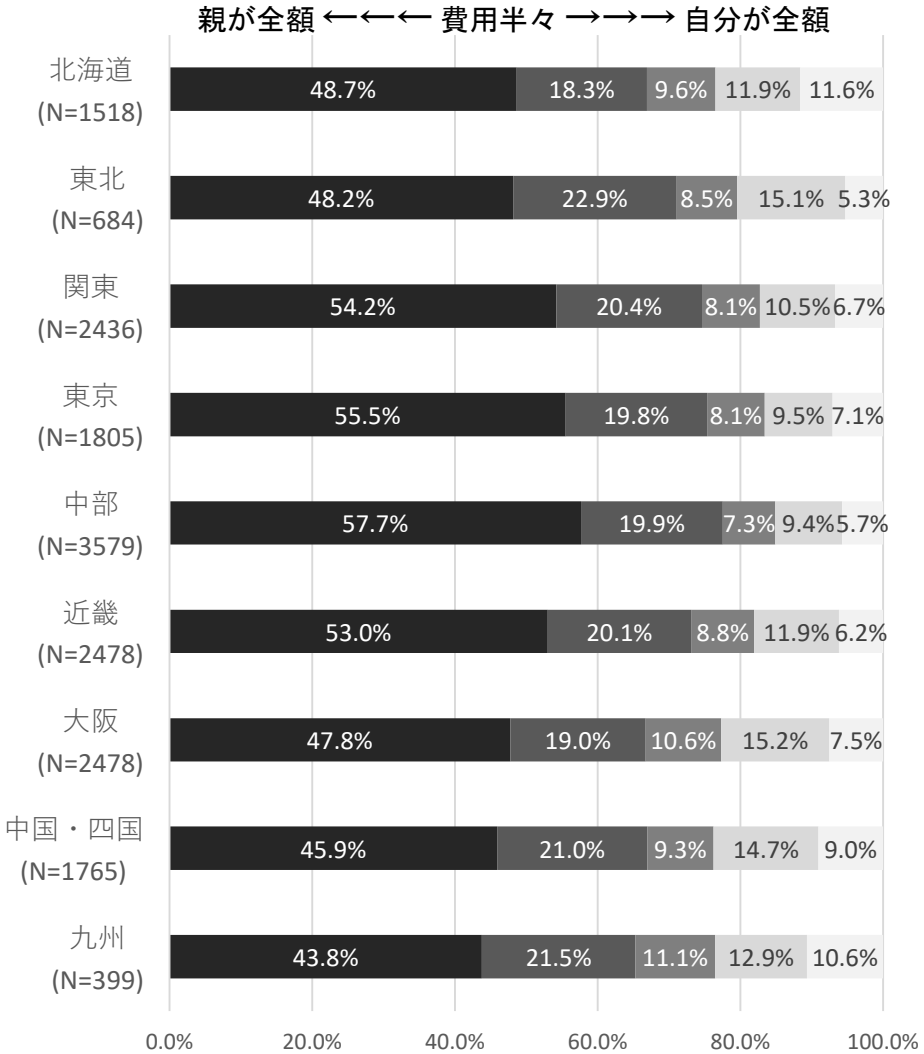


# 地域別にみる経済的支援
## （学内独自の経済的支援を受けているか）



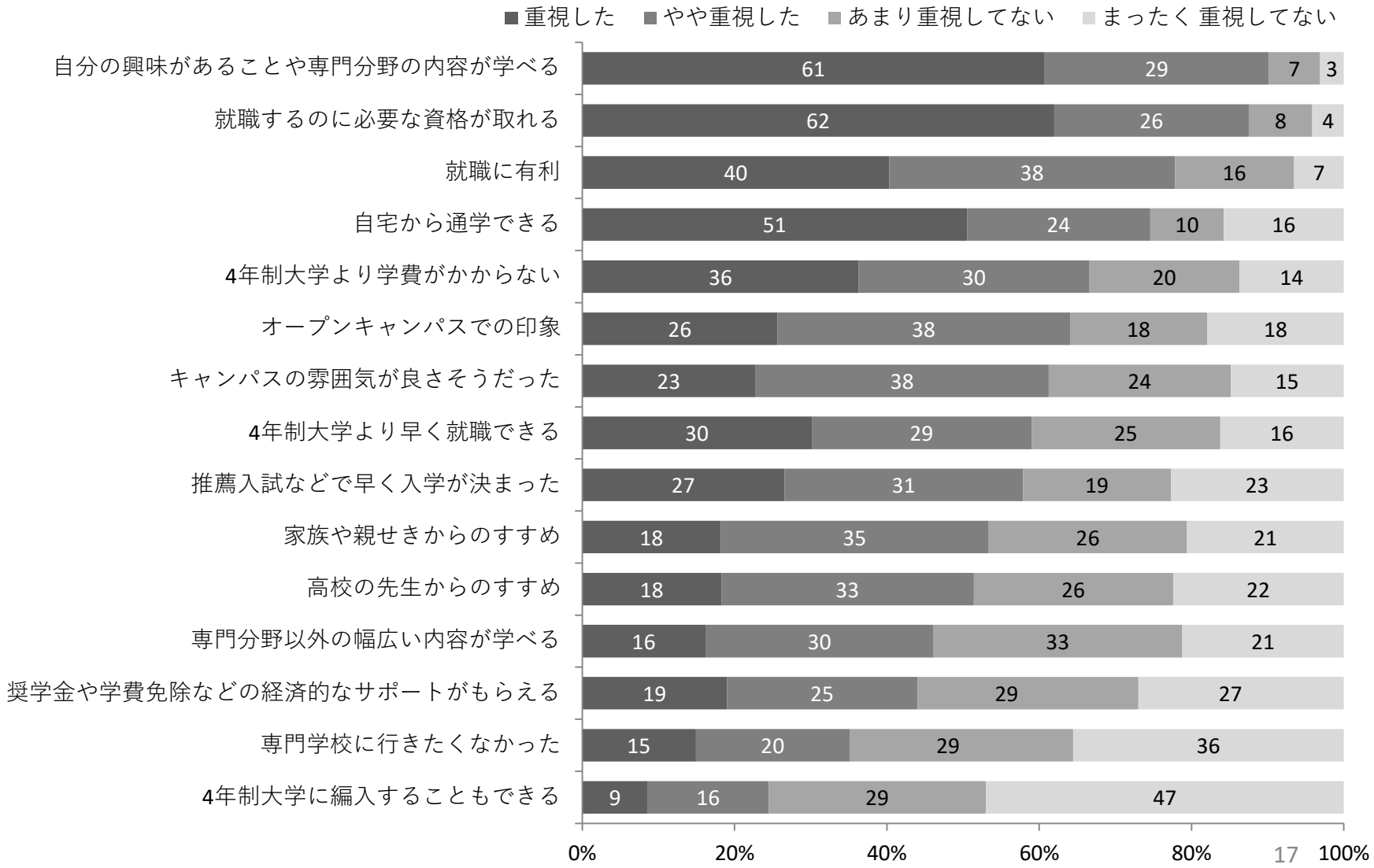

- 短大独自の奨学金や授業料減免の受給有無について、「東京」「中部」「近畿」の順で低い。
- 一方で、「九州」「大阪」「中国・四国」「北海道」で支援を受けている割合が高くなっている

# 地域別にみる費用負担
## （誰がどのくらい負担しているか）




- 「東京」や「関東」、「中部」、「近畿」は親が全額負担しているケースが相対的に多い。
- 「北海道」や「東北」、「大阪」、「中国・四国」、「九州」でも親が負担している割合が大きいものの、短大生自身が費用負担を担っているケースが少なくない。

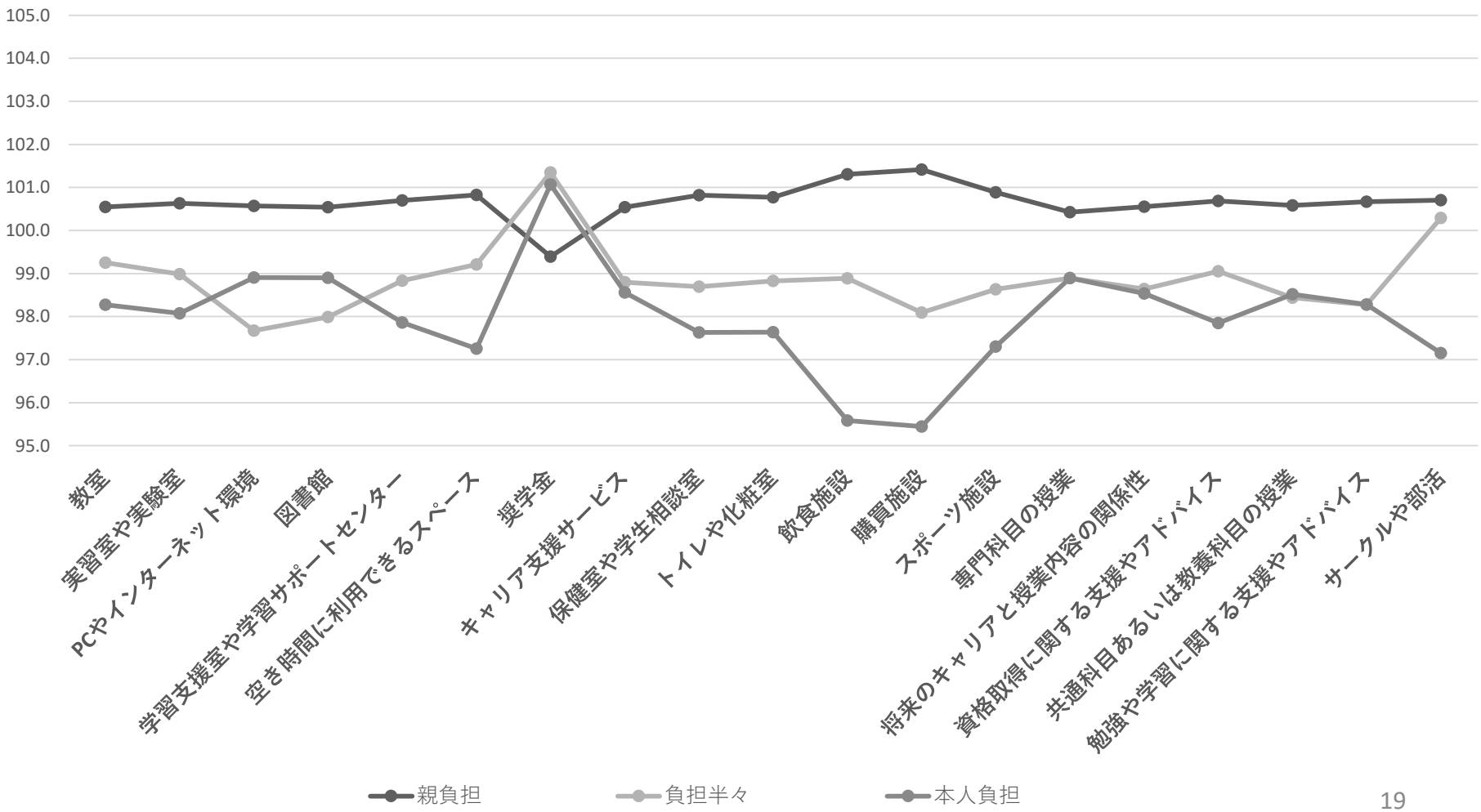
# 短期大学生の進学理由とは？



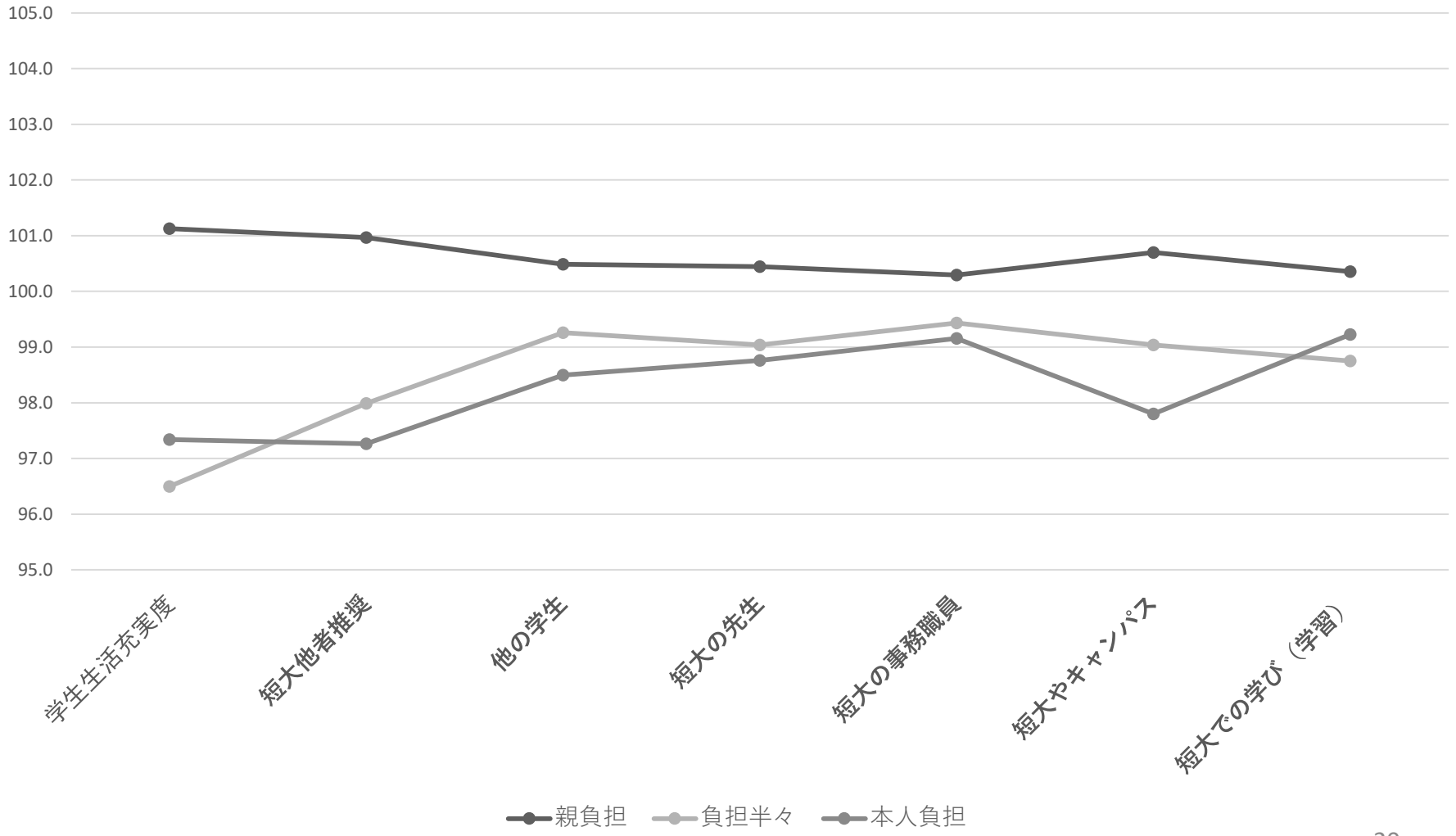
# 費用負担によって進学理由はどう違うか？

| | 費用負担 | | | 多重比較 |
|---|---|---|---|---|
| | 親負担 | 負担半々 | 本人負担 | |
| 家族や親せきからのすすめ | 2.57 | 2.52 | 2.31 | 親＞本人、半々＞本人 |
| 高校の先生からのすすめ | 2.50 | 2.53 | 2.36 | 親＞本人、半々＞本人 |
| 推薦入試などで早く入学が決まった | 2.66 | 2.66 | 2.47 | 親＞本人、半々＞本人 |
| 自宅から通学できる | 3.08 | 3.10 | 3.15 | **本人＞親** |
| 4年制大学より学費がかからない | 2.84 | 3.03 | 3.05 | **本人＞親** |
| 奨学金や学費免除などの経済的なサポートがもらえる | 2.19 | 2.79 | 2.80 | **本人＞親** |
| 自分の興味があることや専門分野の内容が学べる | 3.48 | 3.48 | 3.48 | |
| 就職に有利 | 3.12 | 3.15 | 3.09 | |
| 就職するのに必要な資格が取れる | 3.44 | 3.48 | 3.49 | **本人＞親** |
| 4年制大学より早く就職できる | 2.72 | 2.79 | 2.73 | |
| 4年制大学に編入することもできる | 1.87 | 1.92 | 1.80 | 親＞本人、半々＞本人 |
| キャンパスの雰囲気が良さそうだった | 2.72 | 2.71 | 2.60 | 親＞本人、半々＞本人 |
| 専門学校に行きたくなかった | 2.16 | 2.21 | 2.08 | 親＞本人、半々＞本人 |
| 専門分野以外の幅広い内容が学べる | 2.43 | 2.43 | 2.32 | 親＞本人、半々＞本人 |
| オープンキャンパスでの印象 | 2.75 | 2.74 | 2.60 | 親＞本人、半々＞本人 |

# 学費負担状況によって、短大での学びの実感（満足度など）に違いがあるか？
[全体平均100換算]



# 充実度や短大に対する評価は？
[全体平均100換算]



# 結果１：

① 短大へのアクセスは、自宅通学者が多いが、都心部通学者は1時間かけて通学している者が多い

② 費用負担に関しては、親等の負担しているケースが多い反面、費用の半分以上を負担しながら進学（通学）している短大生も2割はいる

# 結果２：

③ 費用負担状況を考慮して、進学理由・満足度・充実度等の結果をみると…

進学理由→[本人負担]だと、自宅通学、経済的サポート、就職に有利といったところが高くなる

満足度や充実度、短大総合評価→奨学金満足度を除いて、[親負担]が高く、それ以外は低くなっている

※　進学選択時に対しては、家計の影響はあるかもしれないが、進学後の学修経験や学修成果にはほとんど差がみられなかった

# 今後の課題

- 地域特性（周辺の大学数）も踏まえた更なる検討
- 先行研究からも明らかになっている家庭の経済力、教育負担、入学前後の学力や成績など諸要素を合わせた分析
- 専門分野別によって費用負担の状況に違いがみられるか、引き続き検討

# 参考文献


- 小林雅之,2007a,「高校生の進路選択の要因分析」,東京大学大学経営・政策研究センターワーキングペーパーNo.19
- 小林雅之,2007b,「親の教育費負担」,東京大学大学経営・政策研究センターワーキングペーパーNo.21
- 藤村正司,2009,「大学進学における所得格差と高等教育政策の可能性」『教育社会学研究第85集』,pp.27-48
- 矢野眞和,2015,「3章 大学に進学しない理由(2)」「4章 大学に進学しない理由(3)」『大学の条件 大衆化と市場化の経済分析』,pp.71-96,東京大学出版会
- 短期大学基準協会,2018,「短期大学生調査2017年（*Tandaiseichosa*）」報告書（増補版）
- 文部科学省中央教育審議会大学分科会,2014,「短期大学の今後の在り方について（審議まとめ）」